

平成 27 年度 第 1 回 二宮町まちづくり評価委員会議事要旨

開催日時	平成 28 年 2 月 22 日 (月) 14:00~16:40	
開催場所	二宮町役場 2階 第 1 会議室	
主席者	委員	出席 5 名、欠席 0 名
	その他	傍聴 3 名
	事務局	政策部 4 名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状の交付 3. 二宮町まちづくり評価委員会設置要綱及び二宮町まちづくり評価委員会運営要領(案)について 4. 町長あいさつ 5. 委員自己紹介 6. 会長及び副会長の選出 7. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 二宮町行政評価システムの概要等について (2) 政策評価に対する意見等について (3) その他 8. 閉会 	

協議会委員出席名簿

No	氏名	所属	出欠	備考
1	小清水 謙太	公募	○	
2	脇 治	公募	○	
3	大野 和彦	公募	○	
4	野口 和雄	学識経験を有する者	○	
5	竹内 洋子	行政経験者	○	

議事概要

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 二宮町まちづくり評価委員会設置要綱及び
二宮町まちづくり評価委員会運営要領（案）について
- 4 町長あいさつ
- 5 委員自己紹介
- 6 会長及び副会長の選出
- 7 議題
 - (1) 二宮町行政評価システムの概要等について
 - (2) 政策評価に対する意見等について
 - ①生活の質の向上と定住人口の確保
 - ②環境と風景が息づくまちづくり
 - ③交通環境と防災対策の向上
 - ④戦略的行政運営
 - (3) その他

◎は会長、○は委員、●は事務局の発言

・議題（2）①生活の質の向上と定住人口の確保について

- アンケートにおける人口の分布はどうか。
- 20歳以上を無作為に抽出している。
- ◎ 傾向的に高齢者の回答率が高い傾向にある。
- 住んでいる場所によって回答が変わり、交通の便が悪いところは回答が変わる。
- お年寄りにとって住みやすい街なのか疑問を感じている。まちづくりとして生活行動の範囲を網羅しているのか。例えば地方では、タクシー会社などの企業ぐるみで地域密着のターゲットとして、商品配送サービスや移動販売車を始めることをしているところもある。高齢者の安心な暮らしと記載があるが、高齢者になってから他に住むことを視野に考えないようなまちづくりが必要と考える。お年寄りが非常に肩身が狭く見えている。将来、自分もそうになってしまうか心配している。
- ◎ 高齢者をみんなで支え合う仕組みづくりが、本当に進んでいるのか不安ということだと思う。
- 行政からの提案もあるが、地域によって考え方が違う。地域ごとに特性を捉える必要があり、不安をひとつひとつ解決していく必要がある。
- ◎ 事務事業として高齢者をみんなで支え合う仕組みづくりについてどのように評価を行っているのか。
- 介護予防事業について例として説明します。予算事業は、町で実施している事業となっている。各予算事業の評価を行い、介護予防事業について評価を行っている。
- ◎ 買物支援などを町が行っているのか。
- 買物支援は行っていないが、交通施策として取り組みをしている。

- 全体として縦割りの業務に対して評価している。業務としては実施しているため評価が高い傾向にあるが、政策を横断的に取り組む必要がある。
- 政策として定住促進を位置付けているが、定量的に判断するのであれば、人口が減っているのも、政策はうまくいっていないと捉えられる。
 - 子どもが東京へ行ってしまうことを身近に問題視している。なぜ、出て行ってしまいかを考える必要があり、高齢者の問題と直結している。政策として、子育て世代の定住促進をうたっているが、どちらが良いという訳ではなく、高齢者と若者どちらも網羅する必要がある。
- 評価の際に、人口のみを増やすという考えだけではいけない。日本全体で減っているのも、企業や個人など税金を納めていただく人を増やす必要があると思う。
 - 職場に影響されることが多いため、子育てが充実しているのに越したことはないが、二次要因であり、働く場所がないことが、東京へ流出している一次要因である。
- 企業誘致という手法もある。まずは、二宮町の産業社会を構築する必要がある。
- これが欲しいと思った時に、すぐに得られる環境でなければ魅力がなくなる。ニーズ、シーズが揃っている必要がある。仕事についても同じで、生活するには仕事がないとなりたさない。よって、仕事を得られる環境でなければならない。
- ◎ 職場としては中井町に工業団地があるが、中井町や二宮町でなく、秦野市や厚木市に住んでいる。
- 二宮町単独のスポットだけではなく、住みやすさを強調して、どのようにパイプラインを構築していくかが大事。小さな町のスピードの良さを活かしていく必要がある。大規模な市であると声が届かないため、魅力にもなる。
- 二宮町は生活の買物などを不便に感じている。秦野市の方が生活に不便がないので、工業団地に勤めている人は秦野市を選んでいる。
- 商店街が元気無く感じている。元気がない商店街に共通しているのは、物を売るだけで、元気がある商店街はこと（事）を売っている。お客さんのライフスタイルに合わせたことを売っている。
- ◎ 高齢者福祉、子育て福祉などの福祉だけの視点ではいけない。戦略的に商店街を良くすることも大事ということ。
- 異業種交流とあるが、役場の中でも横に交流が必要である。
- 子育てがAという評価だが、出て行った子供からはいつまでここに住むのかと言われていく。買い物などの生活が充実していなければ不便さは解消されない。
- 評価の付け方の補足になりますが、政策として引き続き進めるべきかどうかという視点で評価している。
- そのような視点であれば問題ないのではないか。

・議題（２）②環境と風景が息づくまちづくりについて

- 町外でも緑が多いと感じる市町はあるが、自然と触れあえる環境は二宮町の特徴となっている。歴史や文化の発信が弱く感じている。しっかり耕して二宮町の持っている文化を伝え、発信する必要がある。魅力をどのように伝えていくか、お寺や神社など素材や資源を一回で終わりではなく、時期になると違う魅力をアピールしてリピートしてもらう必要がある。最近、道の駅などが多くあり、そこを活用して素材を置くだけでなく、資源として開発を行い、活性化しているところが増えている。
- 二宮ブランドの開発は素材だけを売るのではなく、ひとひねりし、知恵をしぼり開発することが大事だと考えている。
- ◎ 町は生活の質や町の風景文化そのものを融合してブランドとして進めるとある。
- 融合の表現は良いと思う。ひとつの形をつくるとしてハードとソフトが融合することが大事であり、大きなブランドがひとつ形として表現され具体化すれば価値が高まっていく。
- 以前は落花生が有名で、現在は吾妻山の菜の花になっている。認知度が高いため、有効に活用すべき。吾妻山だけでなく二宮駅までの動線を利用し、人が集まるところの活性化を図る必要がある。ブランドを含めて、周知やマーケティングをして有効に活用する必要がある。
- 吾妻山公園の眺望において海が見えなくなっていると聞いている。木が伸びてしまっていて悪くなっているのか。
- そんなことはない。吾妻山は菜の花の時期に15, 16万人が来園されている。ただし、1, 2月に限って一時的に増えて、それ以外は少ない。
- いくら経済効果はあるのか。
- 経済効果は算出できていないが、一時的なもので、通年でないため、商店も動きづらい。
- 海があることを魅力に感じている。二宮のように手軽に海と山に行ける環境はない。そこも動線でつなぐ必要もある。
- ◎ 回遊性を持たせ、買物ができることも必要。
- 吾妻山公園の来園は、ピークに来ている。よっぽど工夫をしなければ減少していく。駅から登る方、車で来る来園者がいるため、ブランドや物産は、駐車場で販売するなど方法が必要。
- 横のつながりが弱いと感じている。朝市を行ったり、商工会でフィッシュバーガーを作ったりしているが、認知度においてもまだまだと実感した。政策は実施しているがつながりを強くしていく必要がある。
- 町民が知らないことが多い。
- 情報は大事で、情報網を強化する必要がある。情報の周知としてブランドはひとひねりして他と差別、こだわり化していく必要がある。情報は欲しい時に得られる情報でなければならない。違った人へ情報を与えるのではなく、欲しい人に伝えられる方法が必要。また、二宮という言葉が常に入ってくる必要がある。
- 作っている人のアイデアが大事でどこにでもあるものではなく、素材が無くても良い。ゼロから物を作っても良いと思う。

- ふるさと納税では、工夫を凝らした例もある。
- ブランドの認定に審査があるが、作成側にもう少しアイデアを提供しても良いのではないか。
- 政策を見ていると多数あり、やり過ぎているのではないか。多くあり過ぎてイメージがわからないため、選択と集中の必要がある。
- 戦術を細かくしすぎると焦点がぼやけてしまう。ひとつひとつに魅力があるため、戦略と戦術をしっかりわけて見せていく必要がある。
- 民間ではアンケートの過半数を超えることを取り入れても成果があがらず、1%の意見を取り入れた結果、大幅に成果があがったことがある。効率的に合意形成を取るにはアンケートは必要であるが、ひとつひとつに魅力があることを忘れてはならない。

・議題（2）③交通環境と防災対策の向上について

- 二宮駅北口はだいぶ良くなったと思う。
- 観光客が増えて良くなったが、町民から見て通行量が多く危なく見える。
- 商店街を活性化する必要がある。
- 外から多く人が集まる駅において町全体のわかりやすさを示すことは重要。例えば、シンガポールは案内図を言葉でなく絵でわかりやすく表現している。わかりやすいことでもスムーズに移動できる。ユニバーサルデザインは重要。
- 近くに箱根があるので、外国人が多く来ている。外国人にとってはコンパクトに観光できる海と簡単に登れる山がある二宮はニーズがある。
- 駅周辺にはひと、もの、カネ、ことが必要であり、お金を落とす仕組みづくりを作ることが必要で、現状は、素材があってもこと（事）が少ない。
- ◎ 公共交通についてはどうか。
- 百合が丘、富士見が丘など山の上の地区は問題がある。交通環境が整っていないと、事業やイベントなどの参加者が集まらないため、介護予防は難しい。また、介護予防は方法が様々あり、買物もひとつで、自分で選ぶことができないと予防はできない。買物で交流、バス停で交流、頻繁でなくとも交流をするためには外出しやすい環境づくりが必要。
- 公共交通に頼るとアクティビティが落ちる。やはり、自分で車を運転することでアクティビティは広がるため、自動運転の技術進歩に期待したい。また、技術進歩は近年著しく、先進的な施策を考える必要がある。走行スピードが必要なわけではなく、移動を自分でできることが大事と考えている。
- 快適な生活をしていく上で、技術進歩は大事と考えている。限界に感じているマイナスをプラスに変換することができる。
- ◎ 公共事業で行うとお金がかかるため、技術でどうフォローしていくか考えることも必要。先進的な技術を含めて検討することが大事。

・議題（２）④戦略的行政運営について

- ◎ 行政の施策を横へつなげる方法を考える必要がある。
- 住民の方の生きるモチベーション、新しいものやサービスを提案する訳ではなく、生き方の提案からサービスが発生していくと考えている。改善ではなく改革、問題意識ではなく行動に移していく必要がある。各部署が何のために住民に必要とされているか。町は町民に何を求められて存在しているのかを具体的に考えて形にしていくことが大事。それによってうまく生きていこうから町民から良いまちづくりがあがっていく。
- コミュニケーションが大事となってくる。コミュニケーションとして投げたボールがどれだけ返ってくるかが大事。行政は住民の喜びを目指し、本音で住民と語り合う必要がある。現在、広く浅く行っていることを広く深くし、大胆に考えて挑戦していくことが大事である。
- 縦に行っている項目として評価は良いが横断的に取り組みをしていく必要がある。財政難であるが、意見をすべて受け入れようとして矛盾が生じているため、八方美人的に見えている。住民と話し合いをしながら優先順位をつけて政策を実施する必要がある。
- 政策のやり方に工夫が必要である。決まりごとはあるが、平均値は出るため、政策として8割は決まりごとの素材、2割の二宮町独自の味付けをどうしていくかが大事。
- 本音で話し、自治会が動いてくれた事例もある。行政と住民の線引きを明確化することで、二宮町においても行政側でやっていることを住民に任せられる状況を作ると良い。
- 任せるところは任せる。ただ、任せだけではなく、知恵を出して進める。考えること押しつけるのではなく、考え方を説明し、やってもらう。話し方が大事。
- ◎ 町民参加の推進は、行政のコミュニケーション能力の向上が必要ということ。
- もともとこの町は農家、漁村だった。最近では、住宅地、貸し家が多い。職場が近くになくなったので、住宅地化していった。二宮町の産業構造を把握し、サービス産業の可能性はあるが、職場を探すという点においては、町単独で考えるのではなく、周辺の市町村と連携し、広域で考える必要がある。わざわざ東京へ働きに出ることは必要ない。市町村の枠を取り払って広域行政を行うことも重要。
- 単体の力は限界があることがみえている。総合力を出すためのネットワークづくりを行う時代になってきている。
- ◎ 広域行政は何を行っているか。
- ごみ処理の広域化と、消防の広域指令業務を進めている。
- ある地方において、酪農と養鶏場があり、洋菓子に最適な環境と判断し、企業誘致を行ったら続々と企業が入り産業が確立されすごく良い町となった例もある。資源を蘇生することで産業となった。二宮町においてもマイナスをいかにプラスに変える知恵を提案する力が必要。

・議題（3）その他

◎ 各委員から全体への意見と本日の感想等の発言を欲しい。

全体的に政策や施策が総花的になっている。これからますます財政難のため、選択と集中をして効果を上げる必要がある。行政は町民力を発揮できるコミュニケーションを保持する必要がある。

○ 町単独では限界にきていることがわかった。職場があっても住まないことは驚いた。広域行政の重要性を理解した。まだまだ知らないことが多く、広域での周知方法も必要。

○ 合併や広域行政になった時に、自分たちの地域の力、町民力の力が弱いと捨てられてしまう可能性がある。現状として、町民力をつける必要がある。

○ 住んでいる人達ひとりひとりのモチベーションを強くしていく。それが町をつくる力となる。幸せを実感できるまちづくりが中途半端なのでしっかり行っていく必要がある。マーケティングが重要であり、これでいいということはない。物事の移り変わりに対応する力も必要となる。

○ 町民全体の意見は、アンケートなどになるが、アンケートは総花的になる。戦略としては良いものにならない。合意形成として必要であるが、われわれが意見としてあげることで選択と集中を始めてもらうきっかけになれば良い。

道の駅やデパート、スーパーなどが必要で町として魅力が必要と感じている。

広域行政は重要と考える。地域において住む場所と職場などを上手く作る必要があるが、町だけで考えることはなく、近隣市町村と基盤整備の棲み分けをして産業圏として捉え、広域行政を行っていく必要があると感じた。

以上